



近年の健康ブーム。ドラッグストアや健康ショップには、さまざまな健康食品が並んでいる。しかし、本当に効果があるものがどれだけあるのか、という疑問も残る。そうした中で、健康効果への万能性と即効性から最近俄然脚光を浴びつつある食品などの原材料がある。「奇跡のフルーツ」「ハーブの女王」などと呼ばれ、原産地であるポリネシア諸島では2000年以上前から食したり、皮膚に塗ったりして、健康維持に用いられてきた薬用植物「ノニ」である。今回ご紹介する株式会社ピュアブライトは、このノニの健康効果にいち早く着目し、産地での栽培から日本での製品化までの全工程を自社で管理して100%ノニ原液などを提供している健康食品メーカーで、小規模ながらもこの分野で確固たる存在感を持つ企業である。「高品質で信頼される健康食品を提供し、医薬と組み合わせ合わせた統合医療に貢献したい」と語る代表取締役社長 飯塚正氏のお話をもとに、次代のイノベーターに求められる新発想のポイントを探った。

監修・・・  
早稲田大学IT戦略研究所  
(担当：森 聡)  
取材・文・・・  
松岡 功

次代の  
イノベーター  
innovator  
をめざせ!

「統合医療」の発展をめざして  
改革に挑む健康食品メーカーの新発想とは

株式会社ピュアブライト  
代表取締役社長

**飯塚 正**

Tadashi Iizuka

■会社プロフィール

株式会社ピュアブライト

URL: <http://www.pure-bright.com/>

本社所在地: 神奈川県横浜市中区羽衣町3-63-7 アンジェ関内8F

工場所在地: 長野県諏訪郡原村払沢6681-4

業務内容: 健康食品(ノニ原液製品)および自然化粧品品の製造・販売

創業: 1991年

資本金: 1,000万円

従業員: 約20名

代表者: 飯塚正

沿革: 1991年の創業当初はインドネシアなどから薬ウコンを輸入していたが、飯塚社長がインドネシアでノニの果実ジュースと出会ったのをきっかけに、1995年厚生労働省の輸入許可を得て日本で販売。2003年には長野県諏訪郡に自社工場を設け、産地での栽培から製品化までの“一貫生産体制”を確立。

# 『健康食品の一貫生産体制を確立し 医薬と組み合わせた統合医療に貢献したい』

## 伝承医薬品を日本市場で販売

ピュアブライトがその健康効果にいち早く着目したノニ（学術名：モリンダシトリフォリア）は、インドネシア・モルッカ諸島原産の熱帯薬用植物である。高さ8～10mほどの常緑小高木で、葉は大きく革質で光沢がある。卵形あるいは広楕円形の果実の表面に多数の美しい広い花をつけ、中には多数の種子を含む。果実の長さは5～10cm、未成熟な果実は緑色だが成熟すると黄白色となり、柔らかく果汁に富み、銀杏に似た独特の匂いを発するようになる。1本の木に白い花と緑、黄、白の果実が混在する生命力溢れる樹木である。

熱帯地域では1年中果実が実り、葉と果実は食用および伝承医薬品（現地語で「ジャムウ」と呼ぶ）として、高血圧、糖尿病、肝臓病、感染症など各種疾病の治療薬として利用されている。とくにピュアブライトのノニ原液をはじめとしたノニの果実ジュースは、まずくて独特な匂いがあるにもかかわらず、各種疾病に加えてダイエットや疲労回復などにも即効性のある健康食品としてマスコミに取り上げられる機会が増えたことから、認知度は確実に上昇している。

ノニの健康効果への万能性が高いのは、各種ビタミンやミネラルなど140種類以上もの栄養素を含んでいるからだ。ちなみに栄養素の種類では、ローヤルゼリーが約40、プロポリスで約110といわれており、その差は歴然である。

そんなノニを、1995年に厚生労働省の輸入許可を得て日本へ持ち込み、果実ジュースとして日本市場で初めて販売したのが、ピュアブライトの飯塚氏である。そしてビジネスが徐々に軌道に乗ってきた2003年、同社は長野県諏訪郡の標高約1,000mに位置する自然環境に恵まれた場所に自社工場を建設。これにより、飯塚氏が高品質なノニの生育環境として最適だと判断したサモアで栽培から搾汁、一次滅菌処理を行い、日本へ運び込んだノニ原液を自社工場で二次滅菌し、充填して梱包・発送するといった「一貫生産体制」を確立させた。

同社が現在販売している健康食品は、500ml入りの「ノニ原液」をはじめとした4種類。さらに基礎化粧品

やクリーム状美容液などノニを原材料とした自然化粧品も提供している。

これらの製品の販売は、全国のドラッグストアなど薬系ルートが中心。とくにノニ原液をはじめとした健康食品については、ドラッグストアのスタッフや薬剤師を対象に、同社製品の特徴の説明や即効性における実演を交えた勉強会を定期的に行い、ストア側に推奨販売してもらうことを前提としている。また、異なるストア同士で販売エリアが重複しているところについては、ラベルやパッケージの色を変えて個々のストアが売りやすいように配慮。こうしたきめ細かい対応とともに、リピート率80%を超える同社製品の競争力が、ストア側の同社製品販売に対する高いモチベーションにつながっているようだ。



**飯塚：**ピュアブライトはノニ原液を一貫生産体制で製品化できる、日本で唯一のノニ製品専門メーカーです。ノニ製品を販売している会社はいくつかありますが、産地で栽培から手がけて自社工場で製品化まで行っているところはほかにありません。

ノニには、人の健康にとって重要かつ有効な成分であるプロゼロニン、アントラキノン、テルペン、スコボレチンなどが多く含まれています。中でもプロゼロニンは体内でゼロニンという成分に変化し、タンパク質に大きく作用します。当社のノニ原液は、その成分を余すことなくお届け



ノニの木

するために、防腐剤などはもとより水やほかの果汁に至るまでノニ以外のものは一切使用しない果汁100%ジュースとして製品化しています。それを栽培から製品化まですべて自社で管理しているからこそ、高品質で信頼される健康食品として多くの方々にご愛用いただけているのだと考えています。

私がノニを手がけるようになったのは、インドネシアに出かけたときに初めてノニジュースを飲んだのが発端です。もともと漢方薬や健康食品に興味があった私は、1991年に会社を設立した当初、インドネシアなどから薬ウコンを輸入して国内販売していました。そんな折り、初めて飲んだノニの果実ジュースは実にまずいものでしたが、調べてみるとノニは現地で2000年以上も前からジャムウとして扱われ、その健康効果への万能性や即効性には目を見張るものがありました。そこで私はこれを何とか日本へ持ち込みたいと思い、関連する研究機関などの協力もいただきながら厚生労働省の輸入許可を得ようとしたのですが、当初は前例がないこともあってなかなか許可が下りませんでした。ようやく輸入許可を得て日本へ持ち込めるようになったのは1995年。日本市場で初めてノニの果実ジュースの販売にこぎつけることができました。ただ当初は、健康効果は大きいものの、こんなまずいものが売れるかどうか少々不安でしたが、徐々に軌道に乗ってきたので2003年に自社工場を建設し、高品質なノニ原液を提供するために一貫生産体制に踏み切りました。

販売手法についても、強いこだわりを持っています。当社の製品は全国約4,000店（プライベートブランドを含む）のドラッグストアを通じて販売していますが、ただ店頭に並べているだけでは、お客さまに商品価値をお伝えすることはできません。そこで始めたのが当社製品の特徴を説明するだけでなく、即効性における実演を交えた勉強会です。同時に店頭で Gondora 1台を当社製品の陳列に割り当てて推奨販売してもらうことを前提としました。こうしたスペースを確保するのはたいへんなことですが、当社製品のリピート率が80%を超えることから、ストア側も売り応えのあるものとして認識していただいていると思います。

## 国内初の代替医療認定製品に

こうして信頼できる健康食品として着実に愛用者を増やしてきたピュアブライトのノニ原液。その勢いをさらに加速する画期的な出来事が昨年9月に起こった。同社のノニ原液製品が、日本臨床代替医学会から代替医療の



ピュアブライト ノニ原液



ノニの果実

認定製品として、健康食品分野において国内で初めて認められたのだ。代替医療とは、現代の医療（投薬や手術を行う近代西洋医療）に当てはまらない療法（栄養補助療法、食事療法、ハーブ療法、整体、指圧、鍼灸、気功、マッサージ、各種セラピー等）の総称である。病気の予防と治療をカバーし、現代医療よりも副作用が少ないので人体を痛めつけず、現代医療よりも優れた効果を生み出すケースも少なくないことから、安心できる治療法として注目を集めつつあり、専門家の間では「21世紀は代替医療の時代」とも言われている。その代替医療の認定製品として、権威ある学会が同社のノニ原液製品にお墨付きを与えたのである。



**飯塚：**当社のノニ原液製品は昨年9月、権威ある日本臨床代替医学会から、健康食品では国内で初めて代替医療に適した製品であるとの認定を受けました。これは当社のこれまでの取り組みや、ノニ原液製品の品質の高さ、ノニの栄養成分についての分析・研究に基づく臨床データによる効果の実証が認められたもので、たいへん光栄に思っています。

代替医療はまた、医薬とのバランスのよい組み合わせを図る意味で「統合医療」とも言われています。現代の医療において、医薬は短期的な治療には効果を発揮しますが、一方で長期で服用すると副作用を起こして、いわゆる薬害に見舞われるケースも少なくありません。そこで、短期的な治療に効果を発揮する医薬と、長期的に愛用する健康食品をうまく組み合わせ健康維持を図ろうというのが統合医療のめざすところで、私自身の考えもまったく同じです。当社はノニ製品のリーディングカンパニーとして、この統合医療に大きく貢献していきたいと考えています。

## 統合医療の発展に向けた新構想も

ピュアブライトのノニ原液製品が日本臨床代替医学会から認定を受けたことは、同社の荣誉であることもさることながら、ノニ製品全体の普及促進にも大きな弾みをつける好機である。とはいえ、飯塚氏によると、日本のノニ製品の市場規模は現在およそ400億円。もっとも280億円程度だった2年前から比べると急成長しているといえるが、まだまだ市場規模は小さい。そこで飯塚氏は、この分野のリーディングカンパニーとして自社のビジネスを一段と拡大することもさることながら、市場そのものをもっと広げ、さらに統合医療の発展に向けて新たなスキームを構築しようと考えている。それはまさしく現在の医療の仕組みそのものの改革につながる新発想ともいえる。



**飯塚：**ノニ製品をご愛用いただいている方々は着実に増えていますが、市場規模では現在およそ400億円と推定されており、まだまだこれからです。当社としても、これまでのビジネス展開に一層拍車をかけて、ノニ原液の素晴らしさを訴求していきたいと思っています。

とはいえ、市場規模をもっと広げていくためには、当社と同様、薬事法に順守してきちんとビジネスを展開している同業他社にもがんばってもらわないといけません。そこで私は今、そうした同業他社と協力してノニ製品のさらなる普及を図るために、NPO法人「ノニ普及協会」を設立すべく準備を進めています。こうした組織をつくって、同業他社とともにノニをもっと多くの方々に知ってもらうためにはどうすればよいか、どうすれば市場を拡大できるか、さらにノニ製品によって統合医療を発展させていくために何ができるか、といったことを検討し、実践していきたいと考えています。そうした中で公正な競争に基づいて市場を拡大していけるのなら、私は状況に応じて当社のビジネ



サモアのノニ果樹園



長野県諏訪郡の自社工場

スのノウハウを同業他社に伝授してもよいと思っています。

さらにもう1つ、これから私がぜひ構築したいと考えているのは、統合医療の発展に向けた新しいスキームです。これは、従業員50名以上の企業は年に一度、従業員の健康ケアを目的としたカウンセリングを実施しなければならないという今年4月に施行された法令に基づいたもので、そのカウンセリングに向けて統合医療のアドバイザーを育成しようという発想です。

新しいスキームの構想は、ノニ原液製品で認定をいただいた日本臨床代替医学会のご協力を得て、当社が統合医療アドバイザーの育成および資格認定を行う民間機関を設置し、カウンセリングを必要とする企業にお役立ていただくというものです。学会に参加されている先生方に講師をお願いしてアドバイザーの育成を行う一方、当社のノニ原液製品を販売していただいているドラッグストアの薬剤師の方々にも資格を取得してもらい、それぞれの地域で統合医療を広げていっていただく。そうすると、そのうち統合医療アドバイザーが全国に配置される形になり、それぞれの地域のドラッグストアがカウンセリングを必要とする企業の窓口となっていくはずですよ。おそらくこのスキームづくりについては、関係省庁のご支援もいただけるでしょう。私はこの新しいスキームをノニ製品の普及拡大だけに利用するつもりはさらさらありません。ノニ製品の適用も含めた統合医療の発展こそ、これから多くの人たちの健康を守っていく重要な課題だと強く認識しています。ぜひ実現したいと思っています。